

表1 出題問題の検討

課題のある問題

問題	検討内容
<p>午前17 経口避妊薬の服用が禁忌となるのはどれか。 1. 授乳中である。 2. BMI25である。 3. 子宮内膜症の既往がある。 4. 1日5本の喫煙をしている。 5. 子宮頸部円錐切除術後である。</p>	<p>本問は、経口避妊薬の禁忌に関する知識を問う設問である。産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2017 p.238(表1)によると、肥満については「BMI30以上」が慎重投与であり、禁忌ではない。喫煙については「35歳以上で1日15本以上」が禁忌である。子宮内膜症については、むしろ治療に用いられるため、明らかに禁忌ではない。子宮頸部円錐切除術の適用となる子宮頸部上皮内腫瘍、子宮頸癌も慎重投与であり、禁忌ではない。ゆえに選択肢「2. BMI25である。」「3. 子宮内膜症の既往がある。」「4. 1日5本の喫煙をしている。」「5. 子宮頸部円錐切除術後である。」は明らかに誤答である。</p> <p>残る「1. 授乳中である。」について、産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2017 p.238(表1)には、「授乳中は禁忌(WHOME Cでは6か月未満)」と記載されている。ゆえに「1. 授乳中である。」が正答と考えられるが、WHO Medical eligibility criteria wheel for contraceptive use 5th edition 2015, p.28には、産褥6週未満の授乳婦は混合型経口避妊薬を「服用すべきでない」(カテゴリー4)であるが、産褥6週から6か月までは「リスクを上回る利益がある場合は服用してもよい」(カテゴリー3)と記載されている。選択肢1. には時期の記載がないため、時期を付記することが望ましい。</p>
<p>午前34 羊水過多症に伴い母体に生じる症状はどれか。2つ選べ。 1. 多尿 2. 発熱 3. 不眠 4. 子宮収縮 5. 食欲亢進</p>	<p>本問は、択二式の設問で、羊水過多症に伴う母体に生じる症状を問うたものである。Newエッセンシャル産科学・婦人科学第3版 p417-418に、臨床症状として「子宮収縮、子宮口開大などの切迫早産症状を認める。」と記載されている。ゆえに、「4. 子宮収縮」は正答である。</p> <p>残る4つの選択肢について、前掲のNewエッセンシャル産科学・婦人科学第3版 p417-418に「重症例で呼吸困難、起座呼吸、悪心・嘔吐、浮腫などが生じる。」とある。ウィリアムス産科学 原著25版, p.278、助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ 妊娠期, p.128には、羊水過多症に伴う子宮の増大による症状として、呼吸困難、動悸、浮腫、乏尿が挙げられているが、「1. 多尿」「2. 発熱」「3. 不眠」「5. 食欲亢進」は記載されていない。「3. 不眠」については、呼吸困難、起座呼吸により生じうる。すなわち、不眠は羊水過多症による直接的に生じる症状というよりも二次的に生じうる症状といえる。不眠は妊娠後半期の一般的なマイナートラブルの一つにもあげられているため、本問を「4. 子宮収縮」のみを正答とする択一式の設問とするか、文献中に記載されている臨床症状を選択肢に含めることが望ましい。</p>